

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荏田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荏田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



5. 長津田から鶴間まで

大山街道は長津田を過ぎると再び国道 246 号に合流します。そのまま西へ向かうと町田辻の交差点で、旧大山街道と国道とに分岐します。ここからしばらくの間は、旧道を楽しむ旅が味わえます。

圓成寺(えんじょうじ)は、天正時代(1573～1592)には創立していたといわれ、境内には下鶴間村を支配した領主、江原家の墓があります。

目黒の交差点付近では、国道に阻まれて迂回せざるをえませんが、境川を渡ったところには観音寺があります。寺内には、天文 13 年(1544)作と思われる大和市重要文化財指定第一号の「厨子」があります。

この観音寺から先が下鶴間宿です。当時は「松屋」、「三津屋」、「ちとせ屋」等といった旅籠や、床屋、酒屋、小間物問屋等もあり、多くの旅人で賑わっていたとのこと。

さて、下鶴間宿を更に西に行くくと「まんじゅう屋」があります。現在は「記念碑」があるだけですが、天保 11 年(1840)には、渡辺華山も投宿しました。その店先で饅頭を売っていたところからこの名で呼ばれていました。

下鶴間宿から「まんじゅう屋」辺りまで上ると、一面の柴胡が原が広がっていました。渡辺華山は著書「游相日記」の中でこのように表現しています。

鶴間原出づ。この原、縦十三里、横一里。柴胡多し。よって柴胡の原とも呼ぶ。

この先相模大塚までは、大山を正面から右手に仰ぎながら。淡々とした大山街道を柴胡が原の中を歩いていくこととなります。

長津田宿

江戸初期から宿駅に指定され、江戸からの行程九里、荏田宿から二里、鶴間宿へ一里、宿場家数は幕末頃で約 50 軒、中心は元・長津田駅入り口付近にあたる中宿。渡辺華山の「游相日記」に万屋新倉藤七(兎来)や河原松五郎(琴松・旅館業)とのやり取りが記されている。昭和 28 年の大火に往時の面影はないが幾つかの屋号等に名残を残す。

1 下宿石造物



窪田氏宅前にある常夜灯〔道祖神、文化14年(1817)銘〕、宿内大山講の建立。他に馬頭観音3基・庚申塔2基・地藏・弁財天等。

2 随流院(火伏観音)

大林寺末。曹洞宗。本尊・卯年観音(岡野家守護仏)。もと天台宗・長蔦寺、慶長年間再興。

3 慈雲山大林寺



曹洞宗。本尊・釈迦如来。境内には旗本領主・岡野家累代の墓所がある。また墓地には幕末の歌人で教育者・関根範十郎信友墓、沢月堂兎来墓、初代・引田天功墓等がある。本堂には兎来作板絵が現存。

4 お七稲荷



柳田家(先祖は岡野家4代・房勝・幕府盗賊追補使役の家来、八百屋お七の処刑に馬の手綱を引いた)の一角に祀り、その冥福を祈った。

5 上宿常夜灯



大石神社参道女坂に。天保14年(1843)宿内の秋葉講中が建立。地神塔は同13年の建立。昭和62年現在地に。

6 大石神社



祭神・大石神、神明神、稲荷神・王子神社と共に長津田鎮守。祭神は在原業平と伝え、神体・大石が在原業平の化身ともされ、種々の伝説が伝わる。

7 御野立所

大正10年11月皇太子であった昭和天皇が陸軍大演習総監の地。

8 陸軍殉職の碑



旧陸軍士官学校の有志が建てた、小川勝美軍曹(公用中当該地で事故死)の供養碑。昭和14年建立。

9 一里塚



高さ5m程の塚の頂には、地獄信仰の石祠がある。明治中期に火難・盗難除を祈るため奥多摩の御獄講を作り祭りに行ってきた。

10 横浜水道道路



近代水道として日本で初めて施設した鉄管水道。国道北側には当時の水道管が常設されている。明治20年には津久井郡三井村から相模川の水を約44km送水した。

11 圓成寺(えんじょうじ)



宗派は浄土真宗本願寺派。山号を山王山紫王院圓成寺と称する。天正年代(1573～1592)には創立していたといわれ、寺内には、木造聖徳太子像や梵鐘・喚鐘が祀られている。

馬の背



「馬の背」はこの辺りの小名地名。地形が馬の背に似ていて、左右に低く、尾根に大山道が通っていたことによる。見晴らしが良く、町田や北西方面を眺望できる。

横浜道祖神



町田街道

明治初期までは「神奈川道」と呼ばれていた。八王子から横浜に通じる。